4-1-6-5　形成外科

1.概要

1.1　形成外科の目標

形成外科は、体表とそれに近しい組織の先天性、後天性欠損の形態的、機能的再建を行い、患者の社会復帰を助ける外科の一分野である。

当院形成外科の一般目標として、患児の身体的、精神発達を考慮した治療を行うこと、非侵襲的治療を推進すること、そして標準的治療体系が無い疾患について、上記の基準に従った体系の確立を推進することとしている。

特に重点をおいている疾患群としては、小耳症を含む耳介先天異常、唇顎口蓋裂、頭蓋縫合早期癒合症，第１第２鰓弓症候群などの頭蓋顎顔面異常、Vascu1ar　anomaly(特にリンパ管腫)などである．これらについて，院内外の専門科とチーム医療を行い，標準的治療体系の確立を推進することを目標としている。

1.2　スタッフの構成

当院における専門診療科の 1 単位である、医長、医員、レジデント各 1 名からなる。

医長：金子　剛（慶応義塾大学 1981 年卒）：主な研修暦は形成外科、脳神経外科、頭頸部外科、外科、麻酔科である．平成元年から 1 年間米国ワシントン大学形成外科、セントルイス小児病院 Cleft Palate and Craniofacial Deformities Institute にて clinical research fellow, その後慶応義塾大学医学部形成外科学専任講師を経て平成 14 年 3 月 1 当院医長に就任，現在に至る。主な関心領城は唇頭口蓋裂、耳介先天異常、頭蓋顎顔面外科，マイクロサージャリーである。

医員：大原博敏（杏林大学 1999 年卒）2006 年 6 月より。慶應義塾大学大学院生でもあり，診療と研究に従事している。主な関心領域は小児形成外科，頭蓋顎顔面外科，マイクロサージャリー。

レジデント：二宮瑠加（日本医科大学 2004 年卒）2006 年 6 月より 2007 年 5 月まで。現在慶応義塾大学大学院。2007 年 6 月より内川由美子（千葉大 2004 年卒），主な関心領域は小児形成外科。

2.臨床実績

2.1　外来

形成外科外来：月、水、金曜午前中 3H-6 にて行っている。初診の多くは second　opinion であるため原則として金子医長が担当している。

口蓋裂チーム外来：第 4 金曜目午後に、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科，歯科と共同で 3H-1 にて行っている。2002 年 6 月 28 日より開始した。鼻咽喉ファイバーにより鼻咽腔閉鎖不全の診断を行っている。口蓋裂患者だけでなく先天性鼻咽腔閉鎖不全症患者が増加傾向にある。

当院の常勤の言語聴覚士（2 名）だけでなく，慶應義塾大学病院を含め、多くの施設から参加していただいている。

セカンドオピニオン外来：2006 年 12 月より，小耳症，頭蓋縫合早期癒合症についてセカンドオピニオン外来を開始した。形成外科単独でなく，成育医療センターらしくチーム医療を強調して耳鼻咽喉科あるいは脳神経外科と協同で行うことで特色をだしており，料金は 30 分 1 万円の設定である。これまでのところ頭蓋縫合早期癒合症について 2 件である。

これらの外来一患者数は別稿の医事統計を参照されたい。ただし初診患者数は病院の初診のみをカウントするので、形成外科初診患者の実数を反映しているとは言えない。

2.2　手術

月曜午後，火曜、木曜の午前午後に手術を行っている．月曜午後には当日入院で全麻下による小手術を行っている。

手術件数の総数は 263 件(目帰り全麻及び局麻７件を含む)であった．手術件数の月別の推移と内

訳は以下のとおりである。

推移

年	2006									2007			計
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
件数	19	15	18	24	29	15	20	23	21	25	21	33	263
日帰り全麻と局麻( )	(1)	1	0	1	(1)	1	0	0	1	0	0	1	7（2）

手術件数の内訳

顔面損傷（骨折を含む）2、口唇裂 27(初回手術 17)、口蓋裂 45(顎裂骨移植を含む．初回手術 22, 咽頭弁形成 8)，手足の先天異常 10、耳介先天異常 66(小耳症関連 33 そのうち自家肋軟骨フレームによる耳介形成 12)、その他の先天異常 52（頭蓋形成術 24 件）、母斑・血管腫・良性腫瘍 41、悪性腫瘍およびそれに関連する再建 0、瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド 6、その他(抜糸、創傷処理など)14 計 263 件。

このなかには、マイクロサージャリーによる遊離複合組織移植術 2 件、脳神経外科と共同で行った頭蓋縫合早期癒合症に対する初回頭蓋形成術 22 件を含んでいる。

3.教育活動

3.1　施設認定

国立小児病院より継続して（社）日本形成外科学会教育関連施設（2003 年 2 月付け）に認定されていたが，2007 年 4 月 1 日より認定施設（小児病院）となった．当院での形成外科研修は 2 年間まで形成外科学会専門医資格に必要な研修年限に組みいれることが出来る。

3.2　院外教育活動

金子医長は慶應義塾大学医学部形成外科客員准教授として、第２，４土曜日の小耳症外来にて診療指導と年 1 回の議義「耳介とその他の先天異常」を担当している。また、慶應義塾大学看護医療学部においても非常勤講師として「先端医療（マイクロサージャリー）」を担当している。また、日本福祉専門学校言語聴覚療法学科においても非常勤講師として年 1 回「口蓋裂」と「鼻咽腔閉鎖不全」の講義を担当している。

3.3　学会活動

金子医長は現在社会保険委員会委員長として、形成外科関係の保険診療の改善、是正のための活動を行っている。日本形成外科学会ではそのほか専門医認定委員会委員，データベース委員会委員を兼務している。

また、日本医師会疑義解釈委員会、厚生労働省先進医療専門家会議、医療材料専門組織などの委員を務めている。